

特集 No. 5

名古屋市内の水辺・公園

～コロナ禍で身近なまちを見直す～

石田 富男

堀川・新堀川

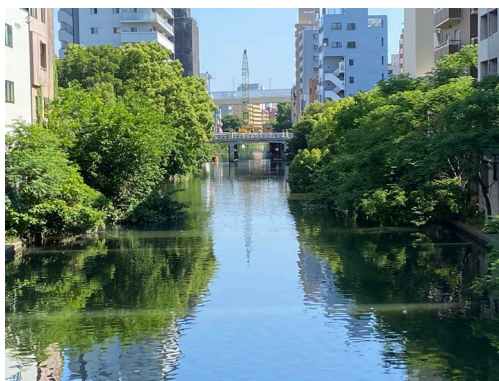
コロナ禍による県外への移動自粛の機会に、身近なまちをじっくり見てみよう、まずは、名古屋都心を流れる歴史ある二つの運河の兩岸を三日間かけて歩いてみた。

堀川では護岸の改修や親水広場の工事を行っている箇所が何か所もある。すでに整備が終わり、市民の散策や憩いの空間として活用されているところも多く、まちが変わりつつあることが実感できる。一方で、未整備区間では長い歴史の中で成長した緑が堀川を覆っている箇所もあり、その景観は魅力的だ。歴史を感じる護岸や橋も多く、よい雰囲気を感じ出している。このようなみどりや歴史性は、護岸改修した後もぜひ継承してほしいと思うが、現状の改修状況をみると、様

相が一変してしまうのではないかと心配にもなる。

一方、新堀川の沿川は散策路などに利用されているところは一部に留まっており、殺風景な駐車場となっている箇所も多い。水質も堀川が「☆☆☆」や「☆☆」であるのに対し、「☆☆」に「☆」がある」という評価（市民グループモニタリング）で、水を楽しむという状況ではない。現状では整備予定もないようだが、沿川には未利用の市有地らしきところが点在しており、水質浄化とあわせてここをうまく活用すれば、歩いて楽しい空間に生まれ変わるのではないかと期待がもてる。

堀川と新堀川が合流する宮の渡し以南は、川幅も広くなり、様相が変わってくる。船が多く係留されている箇所は変化に富んでおり、眺めていて飽きない。意外な発見だった。



堀川中橋より。みどりが水面に映えて美しい。見た時の感動が写真では伝わらないのが残念。

鶴舞公園



鶴舞公園芝生広場。市公会堂を前にくつろぐ人々。

母校に隣接し、公園内を通過することはよくあったが、改めて公園内を巡ってみてその多様な姿に驚く。

花見の名所として有名だが、花の見ごろはそれだけではない。バラ園や菖蒲池、あじさいの散歩道、スイフヨウ園と季節の花が楽しめるほか、ボランティアが育てる花壇もある。

また、開園百年を超える歴史があり、園内には噴水塔、普選記念壇や奏楽堂、名古屋市公会堂、鶴々亭など歴史的施設が点在し、歴史散歩コースも設定されている。

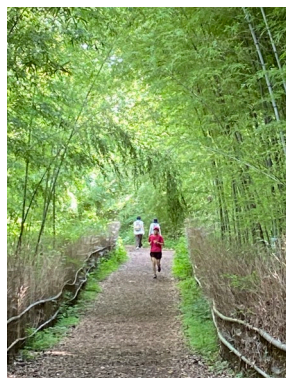
芝生広場ではこれらの風景を背景にのんびりと過ごす人々がいる。一方で人工芝の多目的グラウンド「テラスポ鶴舞」では元気にサッカーを楽しむ人々がいる。市民が多様な楽しみ方のできる場として公園が機能している。

小幡緑地・大高緑地

緑豊かな緑地では様々なアクティビティが展開されている。最近、特に増えたと感じるのが、テントを張って

思い思いにくつろぐ人々である。小幡緑地ではP・P・F・F制度を活用し、キャンプ・バーベキューサイトが本園にオープンしているが、芝生広場や西園でもテントが張られている。大高緑地でもそんな様子が見られ、子ども達が元気に遊具で遊んでいたりと、ジョギングやウォーキングを楽しむ人も多い。

ここでとりあげた事例はわずかだが、市内には他にも個性豊かな水辺や公園は多く、これらを巡るのは結構楽しい。市民の共有財産として水辺や公園をうまく活用しながら、その価値を高めていければと思う。



大高緑地竹林散歩道。緑の中を走るランナー。



小幡緑地西園。思い思いにテントでくつろぐ。こんな姿が市内の公園や緑地で多数みられた。